

江別市の教育

平成19年度

江別市教育委員会

平成19年度

江別市の教育

江別市教育委員会

●●● 江別市教育目標 ●●●

恵まれた自然と いろどりのある歴史をもった
可能性あふれる 郷土「江別」に誇りをいただき
ひとりひとりが自己を充実させ
豊かな未来を築くために

- 1 ● 常に学習に励み 正しい判断力と 創造性に富む人
- 2 ● 自然をいつくしみ 文化を育てる 感性豊かな人
- 3 ● 心身を鍛え 明るく たくましく生きる人
- 4 ● 健全な家庭と 豊かなまちづくりに 努力する人
- 5 ● 国際的視野に立ち 郷土の発展に 貢献する人

21世紀の社会を展望し、心豊かでたくましく創造性あふれる「文教都市えべつ」をつくりあげていくために、江別市教育委員会では、下図の教育施策を柱として、新しい時代に対応した教育行政を推進します。

平成19年度において、江別市教育委員会が取り組む事業などを、この冊子を通じて皆様にお知らせします。

江別市の教育関係施策

施 策	基 本 事 業
5-1 子どもの可能性を伸ばす教育の充実	1 教育内容の充実
	2 開かれた学校づくり
	3 健康と食教育の充実
	4 教育環境の充実
5-2 生涯学習の充実	1 生涯学習関連施設の充実
	2 生涯学習支援体制の推進
	3 生涯学習機会の充実
5-3 青少年健全育成の推進	1 青少年健全育成活動の充実
	2 心のケアの充実
5-4 ふるさと意識の醸成と地域文化の創造	1 自主的市民文化・芸術活動の育成・支援
	2 文化・芸術を支援する市民組織の育成
	3 文化・歴史遺産の保存と継承
5-5 市民スポーツ活動の充実	1 スポーツ・レクリエーション施設の充実
	2 スポーツ・レクリエーション機会の充実
3-3 子育て環境の充実	2 幼保機能の充実
6-3 国内・国際交流の推進	3 異文化交流の推進

※表中の番号は、「江別市総合計画」におけるコード番号を示したものです。

も く じ

子どもの可能性を伸ばす教育の充実

● 教育内容の充実	1
キャリア教育推進事業	
総合的な学習の時間等推進事業	
外国青年招致事業	
情報教育推進事業	
児童生徒用図書室事業	
社会人による教育活動等支援事業	
就学援助	
特別支援教育就学奨励費	
特別支援学級通学付添費	
奨学金	
特別支援教育	
就学指導委員会	
小規模特認校	
姉妹都市交流	
江別市教育研究所	
江別市教育研究会	
● 開かれた学校づくり	12
地域一体型・学校の顔づくり事業	
学校選択制	
学校評議員事業	
学校一斉公開	
● 健康と食教育の充実	13
江別市の学校給食	
● 教育環境の充実	14
校舎躯体耐震調査事業	
学校施設整備	

生涯学習の充実

● 生涯学習支援体制の推進	15
体験活動・ボランティア活動支援センター	
生涯学習団体支援	
青少年ふれあい交流促進事業	
● 生涯学習機会の充実	15
生涯学習講座事業	
高齢者学級の開設	
ふるさと江別塾～まちおこし市民大学講座	
学社融合事業	
家庭教育事業	
情報図書館運営管理事業	

青少年健全育成の推進

● 青少年健全育成活動の充実	19
ジュニアリーダー養成事業	
青少年キャンプ村事業	
成人式開催事業	
青少年文化賞顕彰事業	
江別市青少年のための市民会議	
● 心のケアの充実	20
問題行動対策事業	
電話相談事業	
いじめ・不登校対策事業	
心の教室相談事業	
スクールカウンセラー事業	

ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

● 自主的市民文化・芸術活動の育成・支援	23
市民文化祭開催支援事業	
発表の場拡大事業(芸術文化奨励補助金)	
子どもの文化活動育成事業	

文化振興奨励事業(芸術文化大会・コンクール出場奨励金)
江別叢書等の販売
各種助成制度の情報提供
陶芸文化普及振興事業
セラミックアートセンター企画展開催事業

● 文化・芸術を支援する市民組織の育成	25
まちかどコンサート事業	
市民ミュージカル事業	
● 文化・歴史遺産の保存と継承	26
トリアスカル事業(トリアス☆アス☆カル2007～サマーアートキャンプIN江別～)	
郷土資料館運営事業等	

市民スポーツ活動の充実

● スポーツ・レクリエーション施設の充実	27
学校体育施設開放事業	
体育施設改修整備事業	
スポーツ施設整備事業(余裕教室の活用)	
江別市体育協会補助金	
江別市スポーツ少年団補助	
総合型地域スポーツクラブ	
● スポーツ・レクリエーション機会の充実	30
スポーツ大会出場奨励金	
青少年スポーツ賞	
軽スポーツ出前事業	

子育て環境の充実

● 幼保機能の充実	31
幼稚園保育料の減免(幼稚園就園奨励事業)	
幼稚園に対する補助制度	
江別市幼児教育推進協議会	

国内・国際交流の推進

● 異文化交流の推進	32
小中学生国内研修交流事業	
中学生海外研修交流事業	

資料編

教育委員の紹介	33
各種審議会等	33
教育予算の状況	34
江別市立小中学校一覧	35
児童生徒数の推移(市立小中学校)	36
江別市立小中学校施設概要	37
市内の市立以外の学校	38
市内の幼稚園	39
放課後児童会・児童センター一覧	40
社会教育施設	41
公民館	
旧町村農場	
北海道林木育種場旧庁舎	
江別市民文化ホール	
情報図書館	
郷土資料館	
屯田資料館	
江別市セラミックアートセンター	
スポーツ施設概要	48
スポーツ団体一覧	49
各スポーツ施設利用状況	50
江別市教育のあゆみ	52
教育委員会の主な仕事の内容と担当部署	54

子どもの可能性を伸ばす教育の充実

教育内容の充実

【5.1.1】

>>> キャリア教育推進事業

近年、いわゆるニートと呼ばれる、通学も仕事もしておらず職業訓練も受けていない若者の増加が問題となっています。

これらの対策として、明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み、児童生徒一人ひとりが「生きる力」を身に付け、主体的に自己の進路を選択・決定できるなど、社会人・職業人として自立していくことを目的として「キャリア教育」を推進します。

◇平成19年度予算額 596千円

◇実施内容

原則として連続5日間事業所に入り職場体験をする。

◇実施校

江別第一中学校 2年生 217人 実施期間 7月17日～20日
 中央中学校 3年生 193人 実施期間 8月27日～31日
 大麻中学校 2年生 143人 実施期間 10月15日～18日
 江陽中学校 2年生 133人 実施期間 10月22日～26日

協力企業名一覧（平成19年5月31日現在判明分、順不同）

福祉関係	愛保育園	ケアハウスのぞみ	デイサービスセンターのぞみ	静苑ホーム
	デイサービスおひさま江別	デイサービスセンター友愛江別	デイサービスセンター友愛野幌	特定施設入所者生活介護もみの木
	特別養護老人ホーム誠志苑	友愛ナーシングホーム	老健のっぽろ	
幼稚園	あけぼの幼稚園	江別あかしゃ幼稚園	江別大谷幼稚園	大麻ひかり幼稚園
	大麻藤幼稚園	大麻幼稚園	上江別幼稚園	第二大麻幼稚園
	のっぽろ幼稚園	元江別わかば幼稚園	元野幌めぐみ幼稚園	若葉幼稚園
その他民間企業など	赤八巻	今井	江別市スポーツ振興財団	江別振興公社
	江別製粉	王子エンジニアリング	ガソリンショップおかもと	カメラのキタムラ江別弥生店
	ゴルフ	コープさっぽろ江別店	コープさっぽろ野幌店	札幌学院大学
	札幌学院大学生協同組合	サンクス野幌店	シーエックスカーゴ北海道流通センター	JA道央農協江別ストア
	市民会館レストランマキシドルバ	生活応援館プライス大麻店	セイコーマートこざわ店	セイコーマートやよい
	セブンイレブン一番町店	セブンイレブン江別牧場店	セブンイレブン上江別西町店	セブンイレブン東野幌店
	ダイソーホクレンショップゆめみ野店	ツタヤ上江別店	ツルハドラッグ江別牧場店	ツルハドラッグ大麻店
	ツルハドラッグ東野幌店	道菱石油江別営業所	トンデンファーム	広谷製パン
	なんでもリサイクル ビッグバン江別弥生店	100円ショップキャンドウ 東野幌店	ブックアート	ベスト電器ハル江別店
	ホームマック江別店	ホームマック元江別店	ホクレンショップ元江別店	ホクレンショップ大麻北町店
	ホクレンショップゆめみ野店	北海道情報大学	北海道電力総合研究所	マクドナルド元江別ホクレンショップ店
	マクドナルド江別ポスフル店	マツヤデンキキャデン江別店	三浦建設	米澤煉瓦
	酪農学園大学	酪農学園大学生協同組合	ローソン江別一番町店	ローソン江別弥生町店
	江別市役所各部	市内市立小学校16校	江別市教育委員会	

>>> 総合的な学習の時間等推進事業

義務教育の新領域として導入された「総合的な学習の時間」では、各学校が創意工夫し、体験学習や問題解決学習など、これまでの教科の枠を超えた幅広い学習活動に取り組み、子どもたちの「生きる力」の育成を目指します。

- 平成19年度予算額 11,071千円（小学校費 7,100千円 中学校費 3,971千円）

>>> 外国青年招致事業

外国青年による語学指導を通して生徒が生きた英語に接する機会を日常化し、国際化の理解と関心を深め、英語教育の充実を図ります。

- 平成19年度予算額 9,292千円
- 英語指導助手配置人数 2人
- 対象校 市立中学校10校

>>> 情報教育推進事業

情報化社会のめざましい進展にともなう情報教育への対応を図るため、教育用コンピューターの整備をすすめます。

- 平成19年度予算額 86,385千円（小学校費 60,134千円 中学校費 26,251千円）

>>> 児童生徒用図書室事業

「総合的な学習の時間」における「調べ学習」等、学校図書の充実がより必要となるので、計画的に図書及び書架等の整備を進めます。また、児童生徒が読書に親しみ、より豊かな表現力・想像力を培うことができるよう学校図書館の環境改善を平成14年度から実施しています。

- 平成19年度予算額 15,200千円（小学校費 7,600千円 中学校費 7,600千円）

>>> 社会人による教育活動等支援事業

子ども一人ひとりの特性を生かし、その固有の能力を伸ばすことや「確かな学力」の向上、「豊かな心」と「健やかな体」を育成するとともに、地域に開かれた魅力と活力ある「信頼される学校づくり」の実現を目的とし、文化・芸術・体育など多岐にわたる分野から秀でた、いわゆるプロフェッショナルの社会人を幅広く募り、授業（総合的な学習を除く）や各種教育活動の講師として派遣します。

- 平成19年度予算額 1,000千円

>>> 就学援助

経済的理由によって、就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して、その就学に必要な援助を行います。

援助費の内訳（平成19年度、ただし※は平成18年度実績の1件当たり平均支給額）

区 分		小学校	中学校	支 給 内 容
新入学児童生徒 学用品費等	1年	円 19,900	円 22,900	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 通学用品費 校外活動費	1年	10,080	19,020	各教科及び特別活動の学習に必要とされる学用品（実験、実習教材費を含む）、通学用靴、雨傘等の通学用品に係わる経費及び宿泊を伴わない校外活動に参加するために必要な交通費及び見学料（年2回分割支給）
	2年	11,820	20,760	
	3年			
	4年			
	5年			
6年				
体育実技用具費	スキー	※ 25,305	※ 36,330	体育授業の参加に必要な体育実技用具
宿泊校外活動費		3,470 上限	5,840 上限	学校行事として宿泊を伴う校外活動（学校内での宿泊を除く）に参加するために必要な交通費及び見学料（年2回分割支給）
通 学 費		※ 39,979	※ 26,460	最も経済的な通常の経路と方法により通学する場合の交通費（片道の通学距離が小学校4km以上、中学校6km以上）
修学旅行費		20,600 上限	55,900 上限	小学校及び中学校で、それぞれ1回参加する修学旅行に直接必要な交通費、宿泊費、見学料などの経費
学校給食費		※ 42,106	※ 49,884	学校給食に要する食費の全額
医 療 費		※ 14,527	※ 13,546	伝染病又は学習に障害を生ずるおそれのある疾病（学校病）にかかり、学校から治療の指示を受けたとき、その疾病のための医療に要する費用 学校病とは、トラコーマ及び結膜炎、白せん、疥せん及び膿痂疹、中耳炎、慢性鼻腔炎及びアデノイド、う歯、寄生虫（虫卵保有を含む）をいう。

就学援助の状況（過去5ヶ年の推移）

（単位：人・千円）

区分	年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
小学校	実施人員	998	1,128	1,200	1,281	1,351
	決算額	73,925	84,872	88,956	97,961	95,204
中学校	実施人員	465	496	549	631	670
	決算額	54,756	56,810	63,155	72,556	73,148
計	実施人員	1,463	1,624	1,749	1,912	2,021
	決算額	128,681	141,682	152,111	170,517	168,352

>>> 特別支援教育就学奨励費

小学校及び中学校の特別支援学級に在籍し、就学援助の対象とならない児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するための援助を行うことにより、特別支援教育の振興を図ります。

奨励費の内訳（平成19年度、ただし※は平成18年度実績）

区 分		小学校	中学校
新入学児童生徒 学用品費等	1年	円 9,950	円 11,450
学用品費 通学用品費 校外活動費	1年	6,305	11,940
	2年	7,390	13,025
	3年		
	4年		
	5年		
	6年		
体育実技用具費	スキー	※ 12,650	※ 18,150
宿泊校外活動費		1,735 上限	2,920 上限
通 学 費		※ 23,190	※ 56,730
修学旅行費		10,300 上限	27,950 上限
学 校 給 食 費	1年	※ 20,022	※ 24,985
	2年		
	3年		
	4年		
	5年		
	6年		

特別支援教育就学奨励費の状況（過去5ヶ年の推移）

（単位：人・千円）

区分		年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
小学校	実施人員		29	40	42	42	33
	決算額		1,003	1,537	1,383	1,404	1,191
中学校	実施人員		17	17	20	22	23
	決算額		1,088	1,185	1,308	1,430	1,500
計	実施人員		46	57	62	64	56
	決算額		2,091	2,722	2,691	2,834	2,691

>>> 特別支援学級通学付添費

小学校及び中学校の特別支援学級に通学する児童生徒の保護者に対して、通学の付添に必要な交通費を援助します。

- 1人当たり平均支給額 35,829円（平成18年度実績）

特別支援学級通学付添費援助の状況

区分		年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
実施人員	人		38	48	56	59	63
決算額	千円		1,368	1,704	2,009	2,124	2,257

>>> 奨学金

高等学校の就学能力があるにもかかわらず、経済的理由により就学困難な高等学校生徒に対し、その修学に必要な資金の一部を貸与し、等しくその能力に応じた教育を受ける機会を与えることを目的に、実施しています。

制度の概要

- (1) 貸与月額（平成19年度）
 - 公立高等学校 8,000円
 - 私立高等学校 18,000円
- (2) 貸与開始
 - 昭和41年度
- (3) 貸与総額（平成19年3月31日）
 - 71,120,000円
- (4) 償還総額（平成19年3月31日）
 - 53,540,150円

奨学金貸与月額推移

(単位：円)

年度 学校	昭41	42～46	47～48	49～52	53～61	62～元	平2～15	16～
公立	1,000	2,000	3,000	5,000	5,000	7,000	8,000	8,000
私立					8,000	12,000	15,000	18,000

新規選定者数及び償還者の状況（過去10ヶ年の推移）

(単位：人)

項目	年度	平9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
新規選定者数		2	9	10	7	4	10	8	7	8	8
償還終了者数		14	9	7	10	4	9	2	7	9	9

奨学資金申請者及び選定者数の状況（過去10ヶ年の推移）

(単位：人)

年度	内訳	申請者						選定者							
		公私立別		計	学年別				公私立別		計	学年別			
		公立	私立		1年	2年	3年	4年	公立	私立		1年	2年	3年	4年
9		6	0	6	2	2	2	0	6	0	6	2	2	2	0
10		12	3	15	12	3	0	0	8	3	11	8	3	0	0
11		13	6	19	8	8	3	0	13	6	19	8	8	3	0
12		10	10	20	7	7	6	0	10	10	20	7	7	6	0
13		9	5	14	6	4	4	0	9	5	14	6	4	4	0
14		12	5	17	9	4	4	0	12	5	17	9	4	4	0
15		17	9	26	13	10	2	1	13	6	19	6	10	2	1
16		19	9	28	11	8	9	0	14	6	20	5	7	8	0
17		12	7	19	6	6	7	0	12	7	19	6	6	7	0
18		13	7	20	7	7	6	0	13	7	20	7	7	6	0

>>> 特別支援教育

特別支援教育とは、これまでの特殊教育の対象だけでなく、発達障がい等も含めて障がいのある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものです。

江別市では、教育委員会に特別支援教育コーディネーターを1名配置し、学校や関係機関と連携しながら、小中学校の教育支援体制の整備、指導方法の工夫改善のための研修会実施など特別支援教育の推進に取り組めます。

- 平成19年度予算額 4,607千円

また、江別市では、次のような特別支援学級を開設しています。

①知的障がい

学級では、各教科の目標のほかに、健康な体づくり、基本的な生活習慣の形成、社会生活に必要な言語の理解や表現等の指導、対人関係や集団参加を円滑に行わせるための指導、さらには職業生活・家庭生活に必要な知識・技能等を身につけさせるための指導等を行うほか、普通学級の児童生徒と活動を共にする機会を設けるよう配慮しています。

②情緒障がい

学級では、各教科の目標のほかに、日常生活習慣を身につけさせること、感覚機能や運動機能の調和的発達を図ること、生活意欲を高めること等を目標にし、障がいの内容や程度に応じて、個別指導、小集団指導等の工夫をしています。

③肢体不自由

学級においては、各教科の目標のほかに、運動機能や認知機能等の向上を目指した指導を行っています。また、教材・教具の開発に個人差を考慮するとともに普通学級の児童生徒との交流を通して社会性や集団への参加能力を高めるよう留意しています。

④病・虚弱

病・虚弱児とは、一般に病気が長期にわたり、または長期にわたる見込みの者で、その間医療または生活規制を必要とする児童生徒のことです。

本市では、江別市立病院内に「院内学級」を設置し、院内学級教諭と病院の職員との間で緊密な連携をとりながら健康回復を図るための指導を行い、各教科の指導にあたっては、内容を精選するほか、特に身体活動を伴う学習については、指導方法を工夫するなど様々な配慮を行っています。

⑤視覚障がい

学級においては、感覚機能や認知機能、運動機能等の発達を図ること、また、普通学級の児童との交流を通して、社会性や集団への参加能力を高めるよう留意しています。

⑥言語学級通級制度

平成9年4月より通常の学級に在籍している児童に対して、各教科等の指導は通常の学級で行いつつ、言語の障がいに応じた指導を特別の場で行う形態を導入しています。

>>> 就学指導委員会

江別市では、専門家の意見を聞くなどして、適切な就学指導を行うことができるよう、医師・学識経験者・教育職員・児童福祉施設の職員・関係行政機関の職員からなる就学指導委員会を設置し、心身の障がいの種類・程度等に関する調査・審議を行っています。

就学指導委員会における就学状況

(1) 就学指導委員会の審議ケース

(単位：人)

就学年度		平14	15	16	17	18	19
区分							
新入学児童		25	32	34	25	31	23
在校生	小学校	10	23	19	9	16	25
	中学校	1	1	1	0	0	0
合計		36	56	54	34	47	48

(2) 上記の就学状況

(単位：人)

就学年度		平14	15	16	17	18	19
区分							
盲学校		-	1	2	0	0	1
養護学校		3	3	5	3	8	6
特別支援学級	知的	13	13	14	5	15	18
	情緒	3	16	10	7	7	8
	肢体	2	1	1	1	2	2
	弱視	0	0	0	0	0	1
言語(平成9年度から)		10	13	18	10	10	7
普通学級		5	9	4	8	5	5
合計		36	56	54	34	47	48

平成19年度 特別支援学級設置状況 (平成19年5月1日現在)

区分 学校名	障がい 区分	設 置 年 月	学級数	児 童 生徒数	学 年 別 内 訳						教員数	補助教員 介助員数
					1	2	3	4	5	6		
江別第三小学校	知的	35.4	1	3	1	0	0	0	1	1	1	1
	情緒	47.4	1	4	1	0	0	1	1	1	1	1
	病虚弱	56.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大麻小学校	知的	19.4	1	2	1	0	0	0	1	0	1	0
	情緒	19.4	1	2	1	1	0	0	0	0	1	1
中央小学校	知的	52.1	2	13	2	2	3	1	2	3	4	2
	情緒	52.1	2	9	0	0	1	1	3	4	3	1
東野幌小学校	知的	19.4	1	2	1	0	0	0	1	0	1	1
	情緒	19.4	1	3	1	0	1	0	1	0	2	0
	肢体	58.4	1	2	1	0	0	0	0	1	1	1
大麻泉小学校	知的	53.4	2	10	1	3	1	2	1	2	4	1
	情緒	53.4	2	12	1	3	2	2	3	1	3	2
いずみ野小学校	肢体	18.4	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0
小学校計(6校)			16	64	11	11	8	7	14	13	23	11
江別第一中学校	知的	33.4	2	10	4	5	1	/			3	0
	情緒	51.4	1	3	0	1	2				1	1
	病虚弱	58.4	0	0	0	0	0				0	0
江別第二中学校	知的	19.4	1	3	2	1	0				2	0
	肢体	19.4	1	1	1	0	0				1	1
大麻東中学校	知的	54.4	1	8	2	5	1				2	1
	情緒	58.4	1	5	1	3	1				2	0
	弱視	19.4	1	1	1	0	0				1	0
中学校計(3校)			8	31	11	15	5				12	3
合 計(9校)			24	95							35	14

(注) ただし、病虚弱学級は江別市立病院に開設しています。

障がい区分別児童生徒数

(平成19年5月1日現在) (単位:人)

区 分	児童生徒数	小 学 校	中 学 校
知 的	51	30	21
情 緒	38	30	8
病 虚 弱	0	0	0
肢体不自由	5	4	1
弱 視	1	0	1
合 計	95	64	31

通級指導校設置状況

(平成19年5月1日現在) (単位:人)

区分 学校名	障がい 区分	設 置 年 月	児童数	学 年 別 内 訳						教員数
				1	2	3	4	5	6	
中央小学校	言語	9. 4	29	4	7	4	7	5	2	3
大麻東小学校	言語	9. 4	22	3	7	4	5	1	2	2
合 計(2校)			51	7	14	8	12	6	4	5

>>> 小規模特認校

恵まれた自然環境と少人数による人間的なふれあいという小規模校のよい面を生かすため、通学可能な範囲で学校への通学を希望する保護者に校区を開放する「特認入学」制度が、平成4年4月から野幌小学校においてスタートしました。

(1) 特認校制度の趣旨と目的

豊かな自然環境に恵まれ、伝統ある校風のもとに教育実践を行っている小規模校で、心身の健康増進を図り体力づくりを目指すとともに、自然にふれるなかで豊かな人間性を培い、明るく伸び伸びとした特色ある教育を希望する保護者に対して、一定の条件を付けて入学を認める制度です。

(2) 特認入学の考え方

一般的に児童・生徒の学校は、教育委員会が定めた通学区域に基づいて学校を指定しますが、特認入学は、保護者がこの制度の趣旨と目的にそって小規模校の特色ある教育活動のなかで教育を受けさせたいという場合に限られるものです。保護者が小規模校への特認入学を希望する場合は、通学状況及び生活指導面等について、十分に教育的な配慮をしたうえで、教育委員会が指定する学校に限って認められるものです。

(3) 対象となる学校

児童数の状況、学校を取りまく自然環境や交通事情などの地理的状況を考慮して次の学校を特認入学校として指定しています。

学 校 名	住 所	定 員
野幌小学校	江別市西野幌252	16名程度（1学年1学級あたり）

>>> 姉妹都市交流

これまでの国際化は外交、貿易、金融などを中心に推進されてきましたが、現在は、個人が国境を簡単に行き来し、インターネット等を通して各国の情報を家庭で入手するなど、交通・通信手段の著しい発達に伴って、民間レベルでの国際化が急速に進展しています。

このようにボーダレス化が進むなか、多くの諸問題をグローバルな視野で捉えることのできる国際性豊かな人材の育成が求められており、そのためには、異文化に触れ、違いを認めながらお互いを理解し、尊重しようとする姿勢が望まれています。

国内でもそれぞれの地域が、独自の歴史と風土に根ざし培ってきた文化を数多く持っています。

こうしたことから江別市では、昭和52年にアメリカ合衆国オレゴン州グレシャム市と姉妹都市、昭和53年には高知県土佐市と友好都市の盟約をそれぞれ締結し、市民による草の根の交流を深めるとともに、学校教育段階において姉妹校の関係を結び、作品交換、訪問などを通して交流を行っています。

姉妹校一覧

学 校 名	盟 約 先	盟 約 年 月 日
中 央 小 学 校	バ ー レ イ 小 学 校	昭 和 5 4 年 1 0 月 1 9 日
大 麻 泉 小 学 校	ハ イ ラ ン ド 小 学 校	昭 和 5 8 年 2 月 2 8 日
野 幌 若 葉 小 学 校	ホ ー ル 小 学 校	昭 和 5 9 年 6 月 1 7 日
江 別 小 学 校	宇 佐 小 学 校	昭 和 5 9 年 7 月 2 8 日
大 麻 小 学 校	西 グ レ シ ャ ム 小 学 校	平 成 9 年 7 月 1 4 日
江 別 第 三 中 学 校	高 岡 中 学 校	昭 和 6 0 年 8 月 2 7 日
野 幌 中 学 校	ゴ ー ド ン ラ ッ セ ル 中 学 校	平 成 1 5 年 1 月 2 2 日
あ か し や 幼 稚 園	ハ イ ラ ン ド 小 学 校	昭 和 5 8 年 2 月 2 8 日
と わ の 森 三 愛 高 等 学 校	サ ン ・ バ ー 口 高 校	平 成 元 年 3 月 1 3 日
同 上	グ レ シ ャ ム 高 校	平 成 元 年 3 月 1 4 日
同 上	マ ー リ ン グ 高 校	平 成 5 年 2 月 2 日
北 翔 大 学	マ ウ ン ト フ ッ ト ・ コ ミ ュ ニ ティ 大 学	昭 和 6 2 年 6 月 1 日
同 上	エ ン デ ィ コ ッ ト 大 学	平 成 3 年 8 月 3 0 日
札 幌 学 院 大 学	ベ ン ト リ ー 大 学	平 成 元 年 5 月 1 9 日

>>> 江別市教育研究所

江別市の教育の実態に基づき教育の理論と実践について専門的研究を行い、教育の進展と内容の充実を図るほか、学校・家庭・地域の連携を支援します。

- 平成19年度予算額 3,741千円

>>> 江別市教育研究会

江別市に学び育つ児童生徒一人ひとりの個性と能力を伸ばすとともに豊かな人間性を育てるため、自主的、組織的に研究活動を展開しています。また、学校教育及び地域社会教育のあり方と連携に関して共通の課題を担い、江別市の教育の充実のための研究と実践を行います。

- 平成19年度予算額 5,423千円

>>> 地域一体型・学校の顔づくり事業

江別市立小中学校では、「特色のある学校づくり」の実現に向けて、各学校が地域の特性などを踏まえて取り組み実践項目を掲げ活動しています。この活動は、「特色のある学校づくり」「開かれた学校づくり」により教育の充実を図ることを目的に平成13年度から実施しています。

平成15年度までは、提示された取り組み実践項目の中から学校が選択して活動していましたが、取り組み内容も熟度を増してきたことから、平成16年度からは、学校が主体的に取り組み内容を企画立案して活動しています。

【取組実践項目の例】

○心豊かな子どもを育むために、地域・父母が協力し合う学校づくり ○生きる力を育むボランティア活動の実践 ○郷土の歴史から学ぶ事業の実践 ○外国人との国際交流の実践 ○読書を愛する子どもを育てる ……など

・平成19年度予算額 3,300千円

>>> 学校選択制

平成17年度から「学校選択制」を実施しています。

「学校選択制」は、通学区域の指定校以外の学校を選択する場合に、子どもたちが行きたい学校、保護者が行かせたい学校を希望できる制度で、この制度の確立によって学校の特色づくりなどを充実させ、魅力ある学校づくりを行うことを目的としています。

- ◇対象 市立小中学校の新1年生
- ◇選択できる学校の範囲 指定校と隣接する学校の中から1校を希望することができます。
- ◇平成19年度選択入学者数 小学校50人 中学校33人 計83人

>>> 学校評議員事業

より一層地域に開かれた学校づくりを進める観点から、学校が家庭や地域と連携協力しながら、特色ある教育活動を展開できるよう、全小中学校において学校評議員制を導入しています。

・評議員数 115名予定

>>> 学校一斉公開

「地域に開かれた学校づくり」を進めるため、市立小中学校・立命館慶祥中学校・北海道札幌盲学校を自由に見学できるよう、公開日を設けています。

・平成19年度開催日 7月4日(水)・11月1日(木) (予定)

健康と食教育の充実 【5.1.3】

>>> 江別市の学校給食

給食センター 江別市元野幌741番地の2 ☎382-5188
 給食センター対雁調理場 江別市工業町9番地の10 ☎383-8550

江別市の学校給食は、昭和37年9月に江別小学校で「パン・脱脂粉乳・おかず」の完全給食として始まり、昭和44年1月、共同調理場方式で市内小中学校に学校給食を開始しました。

昭和54年10月に米飯給食が始まり、平成10年度からは小学6年生の「選択給食」、平成15年度から中学3年生の「卒業祝給食」、平成16年度から小学5年生の、平成17年度から小学4年生の「リザーブ給食」を実施し、食事内容の充実を図るとともに、子どもたちが食物を選択する力を身につけるための取り組みをしています。

現在、センター調理場、対雁調理場の2カ所で、小中学生合計11,800名の給食を供給しています。

【学校給食の目標】（学校給食法）

- 日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うこと。
- 学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと。
- 食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ること。
- 食糧の生産、配分及び消費について正しい理解に導くこと。

《食に関する指導の推進》

子どもたちが豊かな人間性を育み、生きる力を身につけていくために「食」が重要であるとして、平成17年6月10日「食育基本法」が制定されました。給食センターでは、学校および家庭・地域に向けて食育推進の取り組みを行っています。



子どもたちに望ましい食習慣を身につけてもらうために、学校と連携を図りながら、平成12年度より「食に関する指導」を実践しています。

18年度も学校との連携を強化し、給食の献立を教材として、児童生徒の実態を踏まえた指導内容の充実を図りながら食に関する指導を推進していきます。

〔指導学級数 平成16年度：169学級 平成17年度：164学級 平成18年度：209学級〕

《地産地消の推進～江別産食材の活用》

安全・安心な給食提供のため、平成13年度から低農薬で新鮮な農産物を市内農家から計画的に購入する方法を取り入れています。地産野菜の使用割合は、平成14年度45.6%、15年度47.1%、16年度46.9%、17年度は天候不順のため43.0%となりましたが、18年度は51.3%に伸び、19年度は品目の拡大等を図っています。米は全量江別産「ほしのゆめ」を使用しています。

また、17年度に江別産小麦粉100%のパンを初めて年3回実施し、子どもたちに江別産小麦のおいしさを味わってもらいました。18年度は年5回実施、19年度は年7回実施する予定です。

そのほか、江別小麦ラーメン、まちむら牛乳、セミドライソーセージ、アロニアゼリー等、江別で作られている安全良質な食品を、子どもたちに提供するよう努めています。

学年	区分	一食単価	内 訳		
			主 食	副 食	牛 乳
小 学 校	低 学 年	232	54	143	35
	中 学 年	235	57	143	35
	高 学 年	239	61	143	35
中 学 校		292	70	187	35

>>> 校舎屋体耐震調査事業

昭和56年以前に建築された2階建・200㎡以上・非木造建築物の耐震診断、耐震改修を年次計画的に実施します。

- | | |
|----------------------------------|----------|
| (1) 校舎屋体耐震調査（小学校） | 27,479千円 |
| ・大麻西小学校校舎耐震診断委託 | |
| ・大麻泉小学校校舎・屋内体育館耐震改修工事（H18年度繰越事業） | |
| (2) 校舎屋体耐震調査（中学校） | 20,731千円 |
| ・江別第三中学校校舎耐震診断委託 | |
| ・大麻中学校校舎・屋内体育館耐震改修実施設計委託 | |
| ・野幌中学校校舎・屋内体育館耐震改修工事（H18年度繰越事業） | |

>>> 学校施設整備

近年、学校施設は量的整備から「学習方法・指導方法の多様化に対応できる施設」「児童生徒の生活の場としてふさわしい環境」「地域社会に開かれた施設」などに対応できる施設の質的整備が求められています。

このため、次のとおり学校施設の整備等を行います。

小 学 校	中 学 校
校舎屋体改修（32,190千円） <ul style="list-style-type: none"> ・大麻西小学校暖房改修工事 ・大麻小学玄関サッシ改修工事 ・大麻西小学校廊下シャッター設置工事 ・中央小学校バスケットボール改修工事 ・江別第二小学校高圧ケーブル更新工事 ・江別小学校屋体シャッター設置工事 ・各小学校職員玄関自動開閉錠設置工事 	中学校校舎屋体改修（19,852千円） <ul style="list-style-type: none"> ・角山中学校屋内体育館屋根塗装工事 ・大麻東中学校受電高圧ケーブル改修工事 ・中央中学校外壁補修工事 ・各中学校職員玄関自動開閉錠設置工事
小学校環境整備（19,762千円） <ul style="list-style-type: none"> ・市内小学校樹木剪定・遊具点検及び補修 ・江別第三小学校プールろ過装置更新工事 ・中央小学校プールろ過装置更新工事 ・北光小学校プール上屋シート更新工事 ・文京台小学校プール上屋シート更新工事 	中学校環境整備（1,500千円） <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校樹木剪定委託
	中学校大規模改造事業（23,342千円） <ul style="list-style-type: none"> ・江別第一中学校大規模改修

生涯学習の充実

生涯学習支援体制の推進

【5.2.2】

>>> 体験活動・ボランティア活動支援センター

子ども達の放課後・週末等における新たな生涯学習の推進策として、地域で子どもを育てるための総合的な取り組みを支援しています。

放課後や週末等の子どもの活動や高齢者等との幅広い世代間のふれあい交流、自然生活体験、学校と家庭、地域等の活動を積極的に支援するための情報収集、活動の場や、指導者の紹介、調整の相談など幅広い支援活動を行っています。

>>> 生涯学習団体支援

市民主体の生涯学習団体である生涯学習推進協議会や江別市女性団体協議会、江別市PTA連合会の事業運営などに、団体活動を支援するための補助金を交付しています。

- 平成19年度予算額 1,833千円



>>> 青少年ふれあい交流促進事業

生涯学習推進のため、概ね学校区を単位とした青少年と地域を対象に行う社会教育事業や音楽文化事業に対して、補助金を交付しています。

- 平成19年度予算額 200千円

生涯学習機会の充実

【5.2.3】

>>> 生涯学習講座事業

著しい社会の変化に対応し、市民一人ひとりが生きがいのある生活と住みよい地域づくりのため楽しく豊かに学習活動を行えるよう、学習機会の拡充として各種講座を開催します。

>>> 高齢者学級の開設

高齢者の生きがいを高めるとともに生活課題や学習要求に対応するため、65歳以上の方を対象とした蒼樹大学と、蒼樹大学卒業者による自主運営を基本とした聚楽学園を開設し、毎月の定例学習会と選択別の専攻講座、研修旅行や文化祭などの特別行事を行っています。

平成19年度は、蒼樹大学132名、聚楽学園356名が在籍しています。

>>> ふるさと江別塾～まちおこし市民大学講座

市内の4大学がそれぞれの得意分野で、様々な現代的課題やまちづくりをテーマに講座を受け持ち、4大学連携の強化を図るとともに受講者である市民が、地域創造のための問題意識と知識を獲得し、まちづくりに生かすための学習の場として各大学を会場にそれぞれ2回ずつ計8回講座を開催しています。



- 平成18年度の実績 計7講座、延べ203名参加

>>> 学社融合事業

小中学校の校区を中心とした地域との交流を通じた学習活動と連携し、子ども達に農作業体験や自然観察、ものづくりなど地域の中での社会体験の機会を提供するため、地域やPTA、学校が一体となって子ども達を受け入れる事業を行っています。



- 平成18年度の実績 9事業、延べ445名参加

>>> 家庭教育事業

青空のもと、幼児とその親がフォークダンス・リズム体操・創作活動などをしながら、親子のふれあいと参加者相互の交流を持ち、子どもの情操の高揚、しつけのあり方や家庭教育などについて学ぶ機会を提供する「青空子どもの広場」事業を市内5地区で開設しています。



- 平成18年度の実績 延べ116組、231名参加

>>> 情報図書館運営管理事業

1 図書館の概要

情報図書館は、利用者の多岐に渡る知的ニーズに応えるとともに、また各種団体等と連携を図りながら、様々な情報を発信しています。

図書館の詳細な事業内容の情報は、インターネットのホームページ (<http://www.lib.city.ebetsu.hokkaido.jp>)、広報「えべつ」、情報図書館だより（毎月発行）、江別の図書館（年1回発行）などをご覧ください。

なお、図書館の位置、電話番号などは資料編に記載しています。

2 サービスの概要

(1) 図書部門

所蔵資料の館内閲覧・視聴には資格要件はありません。どなたでもご利用いただけます。

- 資料の貸出

江別市内にお住まいの方、市内に通勤・通学されている方について、図書・雑誌資料20冊、AV資料（音楽CD、カセットテープ）1点を上限に2週間以内で貸し出しします。また、団体での貸出制度もあります。本館・2分館・豊幌小学校図書館地域開放事業のどこからでも貸出、返却ができます。

- 予約・リクエスト

貸出中の資料や未所蔵の資料について、できる限り速やかに提供できるよう努めています。

- レファレンスサービス

参考調査のお手伝い、資料の検索相談、他の図書館の資料のアクセス相談などを行っています。お気軽にご相談ください。

- 点字図書などの郵送サービス

(2) 視聴覚ライブラリー

- 視聴覚ライブラリー機器の貸出

ビデオプロジェクター、OHCなどの機器を市内の学校・社会教育団体などに貸出しています。

- 視聴覚ライブラリー資料の貸出

ビデオ、DVDなどの資料を市内の団体及び個人（5点を上限）に1週間以内貸出しています。

- ビデオ編集機器の館内利用

ノンリニアビデオ編集システムなどを団体で利用できます。

(3) 情報提供サービス

インターネットにより、図書館利用情報の提供、蔵書検索サービスなどを行っています。

また、平成17年1月からインターネットでの資料の予約サービスを開始しました。

(4) 学校に関わる支援

平成18年度より学校図書館を支援するための「子どものための読書環境整備事業」として、学校に司書を派遣しております。平成19年度は派遣司書を2名体制とします。また総合学習における支援も行っています。

3 開催事業の内容

(1) おはなし会

本館及び江別分館、大麻分館において、幼児、児童を対象に開催しています。開催日時などは、各館へお問い合わせください。

(2) 映画会

日曜映画会、こども映画会、名作映画会などの上映会を開催しています。

(3) パソコン教室

ワープロ、表計算、インターネットなどを組み入れたパソコン教室をコンピュータ学習室において開催しています。また、講習会のない日は学習室を一般開放しています。



(4) 科学教室

平成19年度は特別な企画を除き休止しています。

(5) こどもの読書週間関連事業など

毎年4月23日からの「こどもの読書週間」に「おはなし会スペシャル」「作って遊ぼう」など特別イベントを開催しています。

また、平成16年度から「読書週間」に併せ「雑誌のリサイクル市」を開催し図書館で利用されなくなった雑誌の市民への還元なども行っています。



青少年健全育成の推進

青少年健全育成活動の充実

【5.3.1】

>>> ジュニアリーダー養成事業

地域の子ども会等少年団体活動の活性化・組織化を図るため、その中心的役割を担うリーダーを目指す小学校5年生から中学校1年生までの20名を対象として、野外実習及び宿泊体験等を行い、子ども会リーダーとしての資質を養成します。

>>> 青少年キャンプ村事業

夏休み中、小中学生を対象として、自然に親しみながら集団生活を通じて、規則ある生活態度、協調性、社会性などを高め青少年の健全育成をめざしています。多様なプログラムを通して日常の家庭・学校生活では得られない場面を直接体験することにより、心の奥底に残る財産形成の一助としています。



- 平成19年度開催日 7月30日～8月4日
- 平成19年度予算額 462千円

>>> 成人式開催事業

新成人となる青年の20歳の旅立ちを祝い、意義あるつどいを記念して、毎年国民の祝日である成人の日に成人のつどいを行っています。また、その年度の成人者で構成する実行委員会が組織され自ら企画準備して実施しています。

- 平成19年度予算額 449千円

>>> 青少年文化賞顕彰事業

(1) 青少年文化賞

全国規模の各種コンクール等において3位以内に入賞または入選するなどの成績をあげ、本市の芸術文化の振興に貢献したと認められる24歳以下の青少年（個人及び団体）が対象です。

(2) 青少年文化奨励賞

全道規模の各種コンクール等において優勝するなどの成績をあげ、本市の芸術向上に寄与したと認められる24歳以下の青少年（個人及び団体）が対象です。



(3) 江別市教育委員会表彰

全道及び道央規模の各種コンクール等において、2位または3位の成績をおさめた青少年の栄誉と努力を讃えるとともに今後の活躍を期待して、教育委員会が表彰を行っています。

>>> 江別市青少年のための市民会議

市民総ぐるみで青少年の健全育成に取り組むため、関係機関の連絡調整を図り統一的な運動を推進するための市民主体の全市的組織として、昭和55年に結成されました。現在、67の団体会員、282名の個人会員を有し、2専門部会において健全育成、環境浄化、非行防止及び広報啓発等の活動をしています。



心のケアの充実

【5.3.2】

>>> 問題行動対策事業

・平成19年度予算額 6,841千円

(1) 少年指導センター

専任指導員（3名）、少年育成委員（36名）により、夕方の街頭指導のほか、夜間、祭典時の指導等の特別街頭指導を実施するとともに、有害環境の浄化活動を推進します。

(2) 江別市指導連絡会

(目 的)

学校及び関係機関との連携を密にし、情報交換並びに事例研究を通して、健全な児童生徒の育成を図ります。

(組 織)

江別市教育委員会が委嘱した小、中、高校の生徒指導担当教員及び教育委員会、市健康福祉部、警察等の関係機関の職員で構成されています。

(活動内容)

- ・児童生徒の問題行動に関する情報交換
- ・事例研究
- ・市内祭典行事などの特別巡回計画

(3) 江別市生徒指導担当教員連絡会

(目 的)

生徒の生活面の実態を把握し、望ましい成長を促すとともに、それを阻害する要因を早期に発見し、予防と対応について連絡協議し、関係機関との連携のもとに活動を推進いたします。

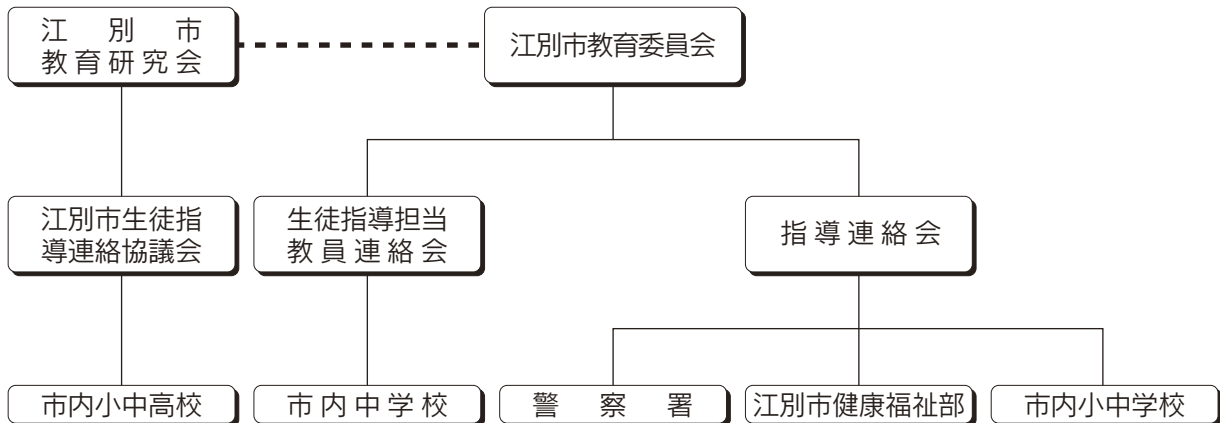
(組 織)

江別市教育委員会が委嘱した中学生の生徒指導担当教員と教育委員会の専任指導員等で構成されています。

(活動内容)

- 生徒の生活上の実態、傾向についての情報交換と分析
- 市内の郊外諸地域の実態把握の活動
- 事例研究と研修活動の充実
- 指導活動の計画と実施
- 関係団体機関等との情報交換及び連絡調整

生徒（児童）指導のための組織



>>> 電話相談事業

- 平成19年度予算額 1,005千円

(1) 江別市ヤングテレホン

青少年や父母等の保護者が、日頃悩んでいる事項を気軽に相談できるよう昭和55年10月に開設されました。ヤングテレホン相談員グループが相談を受け付けます。

(月曜～金曜 午後1時～午後5時 ☎383-8009)

(2) 江別市子育てテレホン

父母等の保護者を対象として、子育てに関する悩み相談に応じるため、平成7年5月に開設されました。子育てテレホン相談員グループが相談に応じます。

(月曜～金曜 午前10時～正午 ☎384-7005)

>>> いじめ・不登校対策事業

• 平成19年度予算額 2,522千円

(1) 教育相談

不登校等問題行動で悩みを抱える児童生徒及び保護者、教職員を対象に臨床心理士が相談員として支援にあたっています。(原則として毎週火曜日 10:00~12:00 江別市青年センター)

(2) ケア事業

レクリエーションや軽スポーツ等の事業を通して、引きこもりがちな子どもが複数の人と一緒に行動できる場をつくり、学校復帰の手がかりを見出すための支援をしています。更にケア事業の拡充として、家庭以外に居場所を失っている子どもに、学習等をする居場所を提供し、学校復帰の手がかりを見いだす‘すぽっとケア’を実施しています。

>>> 心の教室相談事業

心の教室相談員13名を全小学校19校に配置し、生徒の悩み相談に対応できる体制を整備しています。

• 平成19年度予算額 5,550千円

>>> スクールカウンセラー事業

臨床心理士を全中学校10校に配置し、専門的カウンセリングの体制を整備しています。

• 平成19年度予算額 90千円

ふるさと意識の醸成と地域文化の創造

自主的市民文化・芸術活動の育成・支援【5.4.1】

>>> 市民文化祭開催支援事業

市民が行っている文化活動の総合的な発表の機会として、10月から11月に文化の日を挟んで、舞台・文芸・展示・生活科学の部門ごとに多彩な行事が実施されます。江別市文化協会が年に一度の芸術文化の祭典として、歴史と伝統を継承し、大切に育てているものです。

- (1) 舞台部門：10月7日(日)～11月23日(金)の期間に市民会館・えぼあホールで開催。
市民音楽祭／市民器楽祭／民謡熱唱・太々神楽大会／邦楽・邦舞大会／詩吟・剣詩舞／
洋舞フェスティバル／大正琴フェスティバル／子ども文化祭／Eivetz band explosion
- (2) 文芸部門：10月13日(土)～11月4日(日)の期間に野幌公民館等で開催。
短歌大会／川柳大会／俳句大会／一般文芸
- (3) 展示部門：11月2日(金)～11月4日(日)及び11月7日(水)～11日(日)の期間に各公民館等で開催。
菊花展／美術展／写真展／書道展／陶芸展／華道展／一般展示
- (4) 生活科学部門：10月14日(日)～11月9日(金)の期間に各公民館等で開催。
囲碁大会／将棋大会／茶会／アマチュア無線公開

>>> 発表の場拡大事業（芸術文化奨励補助金）

市民の地域文化創作活動を活発にするため、文化団体が行う発表活動に必要な経費の一部を助成しています。

- ◇助成対象：市内で文化活動を行っている団体
- ◇助成経費：発表活動で使用する市内公共文化関係施設の基本使用料分が対象となります。
- ◇申請等：活用のご相談や申請手続き等は、生涯学習課文化振興係（☎381-1060）へお問い合わせください。

>>> 子どもの文化活動育成事業

次世代を担う子どもを対象に、日本の伝統的な文化活動を体験的に習得する機会を提供し、伝統文化に親しみ豊かな人間性をはぐくむことを目的として「土曜広場」を開講しています。

- ◇対象：小中学生
- ◇期間：7月～11月
- ◇回数：月2回（土曜日）
- ◇会場：校区の小学校
- ◇主な講座：囲碁、将棋、手編み・手芸、華道・フラワーアレンジメント、茶道、アートフラワー、木工・工作、百人一首、和太鼓、ハーモニカ、料理、読み聞かせ、クラフト、その他

>>> 文化振興奨励事業（芸術文化大会・コンクール出場奨励金）

芸術文化活動の活発化と人材を育成するため、全国規模で行われる各種芸術文化の大会やコンクールに江別市（北海道）を代表して出場権を得た市民（団体または個人）を対象に奨励金を支給する制度を設けています。

- ◇奨励金：1回の出場につき、個人の場合は、10,000円、団体出場の場合は、100,000円までを上限として、10,000円に出場人数を乗じて得た金額を支給いたします。
- ◇申請等：申請手続き等の詳細は、生涯学習課文化振興係（☎381-1060）へお問い合わせください。

>>> 江別叢書等の販売

郷土の歴史や文化は先人のたゆまぬ努力の足跡であり、永く後世に伝承し保存すべき貴重な文化遺産です。一人でも多くの市民に認識してもらい、江別文化の創造の糧としていくため「江別叢書」を刊行しています。昭和63年からシリーズ全10巻を発刊し販売しています。

また、江別市内の史跡や歴史スポット、豊かな自然を紹介し、市民のみなさんに活用していただくため「ガイドブックシリーズ」を刊行しています。これまで3巻を発刊し販売しています。

- ◇叢書：「江別に生きる」第1巻「世田谷物語」、第2巻「れんがと女」、第4巻「木製戦闘機キ106」、第5巻「人間の詩」、第6巻「番屋残照」、第7巻「母たちの風景」、第8巻「風雪の大地」、第9巻「青年学校物語」、第10巻「野幌原始林物語」
※第3巻「小森忍の生涯」は、品切れ・絶版となりました。
- ◇ガイドブック：第1巻「史跡が語る江別の歩み」、第3巻「江別を歩く」
※第2巻「江別の自然を訪ねる」は品切れとなりました。
- ◇販売：いずれも、市役所売店、市内の書店等で販売しています。
- ◇詳細：購入方法や価格等については、生涯学習課文化振興係（☎381-1060）へお問い合わせください。

>>> 各種助成制度の情報提供

芸術文化の振興を図るため、江別市が設けている制度のほか、国、道、各種財団法人等が行っている助成事業の活用についての相談や照会を行っています。文化関係団体等が行う事業の目的や実施方法等により、助成制度活用の対象要件や補助率等が異なりますので、詳しくは、生涯学習課文化振興係（☎381-1060）へお問い合わせください。

※助成制度の一部をご紹介します。（カッコ内は、主な対象事業名をご紹介します。）

- 江別市教育振興事業補助金（青少年ふれあい交流促進事業）
- 江別市芸術文化奨励補助金（芸術鑑賞招へい事業 発表の場拡大事業）
- 矢澤教育振興基金
- ふるさとふれあい推進基金
- 生涯学習振興奨励費補助金（合唱団演奏会、記念発表大会他）
- 地域政策推進補助金
- コミュニティ事業助成金
- 財団法人北海道文化財団（まちの文化創造事業、こぐま基金事業）
- 住友生命財団
- 株ニトリ「北海道応援基金」

>>> 陶芸文化普及振興事業

陶芸をはじめられる方、すこし経験をされた方や陶芸の技術を習得したい方など、陶芸制作のための教室や講座、また、陶芸を中心とした作品による芸術鑑賞のための展覧会など、より多くの市民に陶芸ややきものに親しんでもらうことを目的に各種の事業を行っています。

初級・中級をはじめとする教室、夏休み・冬休み親子陶芸体験などの陶芸教室、日曜陶芸体験、ゴールデンウィーク陶芸体験、やきもの市陶芸体験等の体験、技法講座など、各種陶芸に関する教室や講座の開設のほか団体での陶芸体験を希望される方の受付も行っていきます。

今年度の展覧会事業は、企画展事業のほかにゴールデンウィークに実施する「しあわせのひととき一灯のある食卓」、6月に江別市ガラス工芸館で創作活動を行う柿崎 均氏の作品を紹介する「LIFE, 柿崎 均展」の開催をはじめ9月には小森 忍の各種図案を展示する「小森 忍の図案」など年5回の展覧会を予定しています。

>>> セラミックアートセンター企画展開催事業

札幌市でガラス工芸品を製造する「有限会社豊平硝子」の足跡は、北海道ガラス製造史であるとともに、明治以降の北海道の産業および文化の歴史でもあります。北洋漁業の隆盛に伴い、浮き玉製造に端を発した同社の活動はその後、ランプのホヤや薬瓶、蠅取り瓶の製造へ転換し、北海道産業の変革に歩調を共にし一時閉鎖します。

その後ガラス工芸に活路を見出し、昭和50年代以降、当時明治大正生まれの職人だけの工房に、20代の工芸家を集め次世代の育成をはかります。それら若手工芸家はその後各地で工房を設立し北海道版「スタジオグラス運動」とも呼べる工芸活動を行います。

本展では北海道の産業史について、ガラス製造史を通して概観するとともに、豊平硝子の「ものづくり・ひとづくり」の実践例を紹介します。



文化・芸術を支援する市民組織の育成 【5.4.2】

>>> まちかどコンサート事業

市民と行政が実行委員会を結成して、市民が芸術文化に接する機会を提供する事業の開催を支援しているものです。

まちかどコンサートは、合唱・弦楽・吹奏楽など市内で音楽活動を行う団体や個人が出演し、多彩なジャンルの音楽で気軽に楽しんでいただけるコンサートを年2回行っています。また、若手音楽家の発掘や育成にも寄与しています。平成19年度は、次のとおり実施します。

◇23th：6月23日(土) セラミックアートセンター屋外

◇24th：12月8日(土) えぼあホール



>>> 市民ミュージカル事業

市民の手で舞台芸術作品を創造することにより、地域文化の底辺を拡大するとともに、次代の芸術文化活動の発展に向けて人材の発掘及び育成を図ることを目的として市民ミュージカルを開催します。

◇期 日：8月25日(土)～26日(日)

◇会 場：えぼあホール

◇演 目：「この夏の自由研究」

文化・歴史遺産の保存と継承

【5.4.3】

>>> トライアスカル事業(トライ☆アス☆カル2007～サマーアートキャンプ IN 江別～)

石狩川や屯田川近辺の自然とふれあい、草木染めや陶芸・ガラス加工など様々な体験活動を通してふるさとの良さを味わってもらう事業です。

◇期 日：7月25日(水) 石狩川で親子乗船体験

7月26日(木)～28日(土) キャンプ(2泊3日)

◇会 場：石狩川、アトリエ陶風の村

◇主な体験活動：石狩川での弁天丸乗船体験、草木染め・陶芸・ガラス加工体験、料理体験、トレッキング、音楽鑑賞など。

◇対 象：小学生

>>> 郷土資料館運営事業等

(1) ふるさと歴史講座

郷土江別の自然、歴史、文化を系統的に学ぶため、それぞれの分野の専門家が講義します。

(2) 学習会・見学会

○こども学芸員カレッジ講座

博物館の専門職としての実践「学芸員」の仕事を体験します。

○再発見・江別探訪

ふるさと江別の史跡見学をウォーキングしながら健康増進と江別の歴史観を深めます。

○屯田兵に関する歴史講座

江別市開拓に貢献した屯田兵の日常食作り体験及び江別・野幌篠津屯田兵についての講座を開催します。

(3) 関連団体との協力

○江別市郷土資料館友の会

江別及び周辺地域の歴史、自然、産業などについて研修し、会員相互の交流をはかるとともに、資料館の関係事業に協力します。事務局は資料館内にあり、どなたでも入会できます。

○江別土器の会

資料館を活動場所に、江別式土器などを復元製作し、公共施設などでの展示や「江別やきもの市」への出品を行い、文化財保護の啓蒙と陶芸の振興に協力しています。

○歴史を伝える集い

郷土資料館に集まり、例会(月1回)の活動をしています。

江別市の歴史、自然、産業につき会員同志の発表会や学習会、戸外での実地見学など実施。また郷土資料館の解説業務、総合学習事業、歴史探訪の講師、市民から提供された民具等の整理展示に協力しています。

市民スポーツ活動の充実

スポーツ・レクリエーション施設の充実【5.5.1】

>>> 学校体育施設開放事業

(1) 社会人体育団体開放事業

市内小中学校25校の体育館・グラウンドを次の内容で開放しています。

- 開放対象：江別市在住・在勤者が8割以上を占めるメンバー10名以上のスポーツ・レクリエーションクラブ
 - 開放期間：毎年4月15日～翌年3月末日（学校行事等で開放できないことがあります。また地域開放実施時はクラブ開放していません。）
 - 開放時間：小学校 9:00～20:45 中学校 19:00～21:00（授業・行事・部活等の時間帯を除きます。）
- ※学校開放を利用する場合には、クラブの登録が必要です。登録についての詳細はスポーツ課（☎381-1061）へお問い合わせください。

(2) 地域開放事業

完全学校週5日制に対応すべく毎週土曜日の午前中に小学校10校の体育館・グラウンドを開放しています。体育館ではバドミントン・卓球・ミニバレー・ボール遊びなどができます。

- 開放対象：小学校区内の小中学生とその保護者
- 開放期間：土曜日（長期休業期間と国民の休日にあたる日・学校行事等が行われる日を除く）
- 開放時間：8:30～12:00

※各校2名の指導員が活動のお手伝いをしています。開放日ほか詳細はスポーツ課（☎381-1061）へお問い合わせください。

(3) 夏休みプール開放事業

市内小学校17校のプールを次の内容で開放しています。

- 開放対象：小学校区内の小中学生とその保護者
- 開放期間：夏休み期間（定休日ほか休業日があります）
- 開放時間：10:00～12:00、13:00～15:30

※監視員を各校2名配置しています。定休日ほか詳細はスポーツ課（☎381-1061）へお問い合わせください。

※夏休み水泳教室〔(財)江別市スポーツ振興財団主催〕が行われる期間は一般開放していません。

>>> 体育施設改修整備事業

(1) 青年センター研修棟窓枠等改修事業

昭和47年建設の青年センター研修棟の鉄製窓枠が腐食等のため、窓枠の改修工事を行います。

また、青年センターの非常用照明器具の改修工事も行います。

- 平成19年度予算額 9,761千円

(2) 大麻体育館第二、第三体育室換気装置設置事業

大麻体育館の第二、第三体育室では、四季をとおして湿度が高い状況にあることから、運動環境の改善を図るために換気装置を設置する工事を行います。

- 平成19年度予算額 1,743千円

>>> スポーツ施設整備事業（余裕教室の活用）

江別小学校の余裕教室2室を改装し柔道練習場として整備をし、地域住民に開放します。

- 平成19年度予算額 3,413千円

>>> 江別市体育協会補助金

市内26競技団体が加盟し、(財)日本体育協会、(財)北海道体育協会と連携をとりながら、江別の競技スポーツの振興に努めています。競技大会への出場、種目指導などのご質問・ご相談は各団体にお問い合わせください。市では、単位協会活動費助成事業、ジュニアスポーツ育成事業、全道大会開催助成事業、研修事業に対して、体育協会の効果的事業展開を助長し、市全体の競技スポーツのレベル向上に資するために補助しています。

- 平成19年度予算額 1,331千円

>>> 江別市スポーツ少年団補助

江別市スポーツ少年団は、本市の青少年スポーツを統括する中枢組織であり、青少年のスポーツ活動と健全育成に寄与しています。

スポーツ少年団独自に全体事業を展開し、指導者養成から団員にスポーツを親しむ機会提供と市全体の青少年スポーツの振興に資するために補助するものです。

- (1) 単位団助成 (2) 指導者養成 (3) 交流事業 (4) 体力測定事業 (5) 少年大会派遣事業
(6) 専門部大会事業

18年度は、11種目43団体、1,464人の団員と228人の指導者が登録をしています。

- 平成19年度予算額 2,222千円

>>> 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは、文部科学省が21世紀の生涯スポーツ社会実現のために1つの大きな柱としている政策で、これから全国に展開しようとしています。

主にヨーロッパ諸国に見られるスポーツクラブの形態で、地域において、子どもから高齢者までさまざまなスポーツを愛好する人々が参加できる「地域の人たちによって自主的に運営されるスポーツクラ

ブ」のことで。

その特色は、「単一のスポーツ種目ではなく、複数の種目が用意されている」「青少年から高齢者、初心者からトップアスリート、スポーツを楽しむ人から競技スポーツを実施する人まで様々な階層の人々が活動することができる」「地域スポーツセンター等を拠点として、定期的、計画的なスポーツ活動ができ、優れた指導者によって、個々人のニーズに合った指導が受けられる」などの点です。

また、総合型地域スポーツクラブのメリットは、次の3つにまとめることができます。

①生涯スポーツの振興

誰もがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現のため、住民が日常的にスポーツを行う場を提供し、環境整備を推進する役割があります。

②子どもたちの健全育成

学校の枠組みを超えて、地域の指導者や学校の先生などに一貫した指導を受けながら、地域の人々がスポーツを通して子どもたちを育て見守る教育的な意味があります。

③住民の交流が進む明るいまちづくり

人々の健康・体力を維持する身体活動の場となるだけでなく、地域の人々がスポーツ活動を通して良好なコミュニティを形成することができます。

市内はもとより石狩管内第1号の総合型スポーツクラブが、上江別地区に「地域スポーツクラブきらり」として、平成16年1月に設立され、今後のモデルとして地区外からの参加希望の受け入れもふくめて活動しています。

- ・平成19年度予算額 2,200千円

スポーツ・レクリエーション機会の充実【5.5.2】

>>> スポーツ大会出場奨励金

江別市民で、それぞれの大会に出場する予選を突破し、国際・全国・全道規模の各種スポーツ大会に参加する青少年と一般の個人の方を対象に、スポーツ大会出場奨励金を支給しています。

該当する大会・申請書類等審査がありますので詳細についてはお問い合わせください。

支給基準表

大会規模	支給額(円)	大会の内容	備考
国際大会	30,000	世界選手権、日本と外国との親善大会等	大会開催地が日本国外
	20,000		大会開催地が日本国内
	20,000	北海道と外国の州等との親善大会等	大会開催地が日本国外
	10,000		大会開催地が北海道内
全国大会	10,000	全日本選手権等	大会開催地が北海道外
	5,000		大会開催地が北海道内
全道大会	3,000	全道選手権、北海道予選会等	大会開催地までの距離が100km未満の場合は支給しない。ただし、宿泊を伴う場合は、この限りではない。

>>> 青少年スポーツ賞

スポーツ大会で顕著な活躍をした青少年を表彰し青少年スポーツの振興奨励とその健全育成に資することを目的として、昭和59年3月に制定しました。道内外で行われる各種スポーツ大会に参加し、輝かしい成績をあげた青少年を顕彰する制度です。

①青少年スポーツ賞

活動拠点が江別市内にある団体や個人が全国規模の各種スポーツ大会において、上位入賞または、全国的な記録を収めた高校生以下の青少年が対象です。推薦を受けた個人・団体を対象に毎年2月に表彰しています。

②青少年スポーツ奨励賞

活動拠点が江別市内にある団体や個人が全道規模の各種スポーツ大会において、上位入賞または、全道的な記録を収めた高校生以下の青少年が対象です。

③教育委員会表彰

活動拠点が江別市内にある団体や個人が全道規模の各種スポーツ大会において、2位・3位の成績を収めた小中学生が対象です。

>>> 軽スポーツ出前事業

10人以上の団体やグループ単位で、ミニテニス・フライングディスク・ユニカール・ハッピーボウリング・ティーボール・長縄跳び&バンブージャンプの6種目の中から気軽に楽しめる軽スポーツを選び、市民体育館から用具を借り受けたうえで活動場所を指定してください。体育指導委員が伺って指導いたします。御利用の際は、指導者手配に日数を要しますため1ヶ月以上の余裕をもってお申し込みください。

子育て環境の充実

幼保機能の充実

【3.3.2】

>>> 幼稚園保育料の減免（幼稚園就園奨励事業）

江別市教育委員会では、各幼稚園が実施する保育料の減免に対して、補助（幼稚園就園奨励費）を行っています。

【平成19年度の減免の概要】

減免額は世帯の課税状況や家族構成によって異なり、次のようになります。

1. 園児に小学校1・2年生の兄や姉がいない場合

園児のうち最年長者（第1子）	イ
園児のうち次年長者（第2子）	ロ
上記以外の園児（第3子以降）	ハ
2. 園児に小学校1・2年生の兄や姉が1人いる場合

園児のうち最年長者（第1子）	ニ
上記以外の園児（第2子以降）	ホ
3. 園児に小学校1・2年生の兄や姉が2人いる場合

	ホ
--	---

区 分	減 免 額 （ 年 額 ）				
	イ	ロ	ハ	ニ	ホ
①生活保護世帯					
②市民税非課税世帯	141,900円	185,000円	257,000円	157,000円	171,000円
③市民税所得割非課税世帯	107,600円	162,000円	250,000円	126,000円	144,000円
④市民税所得割課税額が34,500円以下の世帯	81,700円	143,000円	245,000円	103,000円	123,000円
⑤市民税所得割課税額が34,501円以上135,000円以下の世帯	57,500円	127,000円	240,000円	81,000円	104,000円

※共働きなどで世帯の2人以上に所得がある場合は、市民税所得割額を合算します。

※途中入退園等の場合は、在園期間に応じて減額します。

※幼稚園への保育料等支払額が上記減免額を下回る場合は、その支払額が減免額の上限となります。

>>> 幼稚園に対する補助制度

幼稚園教育の充実と幼稚園経営安定化のため、また、保護者負担の軽減につなげるため、各幼稚園及び私立幼稚園連合会に対し、次のような補助をしています。

【幼稚園補助の概要】

区 分	平成17年度	平成18年度	平成19年度（予算）
運営費に対する補助	18,038,000円	17,916,000円	20,147,000円
障がい児教育に対する補助	1,700,000円	1,500,000円	
連合会事業に対する補助	900,000円	500,000円	
合 計	20,638,000円	19,916,000円	20,147,000円

>>> 江別市幼児教育推進協議会

幼児教育の振興と充実のために、市内の幼児教育機関や他の関係する機関により「江別市幼児教育推進協議会」を設置しています。この協議会では、幼児教育や保育事業における諸課題についての協議や情報の交換をしています。

（協議会の構成：各幼稚園、各小学校、各保育園、教育委員会、江別市健康福祉部）

国内・国際交流の推進

異文化交流の推進

【6.3.3】

>>> 小中学生国内研修交流事業

小中学生を対象として友好都市高知県土佐市と相互訪問による交流事業を行い、他都市における歴史・文化・産業を学ぶとともに、郷土を愛する心を育みます。

- 平成19年度予算額 1,221千円
- 平成19年度派遣日程 10月9日～12日
- 平成19年度受入日程 1月29日～2月1日



>>> 中学生海外研修交流事業

中学生を対象として、姉妹都市である米国オレゴン州グresham市との交流事業を行い、国際理解を高めながら、新しい地域づくりの推進者としての資質の向上を図ります。

- 平成19年度予算額 1,631千円
- 平成19年度派遣日程 11月29日～12月9日
- 平成19年度受入日程 2月上旬～2月中旬



江別市の教育 平成19年度

平成19年8月発行

編集・発行 | 江別市教育委員会
北海道江別市高砂町24番地の6
☎(011) 381 - 1057 (代表)

印刷 | 株式会社須田製版